

## 「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

## 1 コリント教会への手紙のアウトライン

## A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

## B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



## 「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

## 1 今日の聖書箇所：8章1節～13節

## 2 今日のポイント：正しい知識と愛の配慮

## (1)前回までの復習

パウロは7章で結婚について記録しました。7章の最後の部分では「危急に際しての信者の男女の関係」について語りました。パウロが語る「危急」とは「世の終わり」「イエス様の再臨」を意味していました。当時の初代教会ではイエス様を信じる方々が増えていた一方、迫害も激しくなっていく状況の中、イエス様の再臨が近いと思っていたようです。パウロはそのような危急の状態にあるのなら各自が召された状態のまま、主に仕える事を最優先にするように勧めたのです。独身なら独身のまま婚約したら婚約したまま、結婚したのならそのままの状態のままに仕える事を最大の目標として生きるように勧めました。

## (2)知識と愛

パウロは8章に入り、クリスチャンが持つ自由について語りました。イエス様以外に私たちを縛り付けるものはないという自由です。その自由の前に立ちはだかった問題が「偶像に捧げられた捧げ物」についての問題でした。8章の最初の部分(1～3節)で、偶像に捧げられた捧げ物の問題を提議しながらも、まずは知識と愛について語りました。物事について判断する時に正しい知識はもちろん大切ですが、その知識の大なたを振りかざして問題を解決をするよりは、正しい知識の上に愛を重ねて、愛を用いて他の人を生かす方向で問題を解決すべきだと語りたかったのです。

教会での人を導く時にも、正しい知識と愛の両方が必要になります。正しい知識だけを伝えるのではなく、正しい知識を用いて、どう相手を生かすことができるのかを考えていくのが成熟したクリスチャンの姿だと言えます。

## (3)本論：偶像に捧げられた肉について

当時は、偶像礼拝者からクリスチャンになった人々の多かった初代教会では、この問題は大きな関心事となっていました。パウロはまず偶像と言われる存在について単刀直入に整理しました。4節で「実が偶像神などは存在しない」と結論付けました。この箇所に使われている「偶像(原語:ειδωλον)」は、神という超自然的な存在を意味する言葉ではなく、姿や形を意味する言葉で人間が作った偶像という置き物や形ある物という意味の言葉でした。また存在しないという言葉(原語:ουδενος)も「値打ちも、価値も存在さえない」と言う意味の言葉でした。つまり、パウロは、偶像礼拝者が作って拝んでいる作り物自体に何の価値もないし、偶像礼拝者が思っているような神的存在はありもしないと強く牽制しました。そして、創造主はただお一人、救い主もイエス様だけのただお一人だと語りました(6節)。

#### (4)では、偶像に捧げられた肉についてどう考えるべきか

パウロが伝えた正しい知識は「偶像の神なんて存在しない。創造主はただお一人、救い主もただお一人イエス様だけだ」と言うことでした。その正しい知識から偶像に捧げられた肉の問題を考えると、ただの作り物の前に置かれた食べ物という事になります。それゆえに8節には「食べても問題ないし、食べなくても問題ない」と語りました。

ただ、ここで注意しなければならないのは、パウロが7節から語っている信仰の弱い人や偶像礼拝に影響を受けていた当時のクリスチャン達の立場でした。偶像礼拝から立ち返って、偶像とは関係を一切持ちたくないと思っていたクリスチャンも居たと思われまじし、もしくは偶像の前に捧げられた肉を食べることで偶像から何かしらの影響を受けるのではないかと考えていたクリスチャンも居たはずで、パウロはそのような信仰の弱い人々に配慮して、この問題を取り扱うべきだと語りました。偶像なんてなんの効力もないただの作り物であるので、それに捧げたとしても何の影響も受けない食べ物ではあるけれども、もし教会共同体の中に、この食べ物を食べたり、異教の神殿で食事をしている姿を見せることでつまづくことがあるのなら、パウロは今後一切食べないと決断しています。してもよい、しなくてもよい問題を前にして、私たちは「創造主の栄光の為」という基準と、「周りへの配慮(特に信仰の弱い方々への)」を大切に、決断していききたいものです。

### 3 分かち合ってみましょう

聖書が語る正しい知識・正しい判断基準を知るとはとても大切です。しかし、それ以上に、その正しい知識・判断基準を、愛を持って教会共同体の中で適用・適応することが大切です。悪に対して妥協することは良くありませんが、今回のように、創造主はただお一方であり偶像の神は存在しない事をはっきりと伝えながらも、どちらを行っても良い場合には、信仰の弱い方やその他の方をつまづかせないようにする賢明さが求められます。

▶日本という国において、どのように適応できるでしょうか。

(例) ・法事に参加してそこでの飲食の問題 ・神社仏閣を中心とした祭りごとに参加して、そこでさまざまな事に参加する問題 ・伊勢神宮のおかげ横丁に人を連れて行ったり、そこで飲食する問題 などなど

▶聖書にはっきりと記録されていない問題でも「主の栄光の為」「他人をつまづかせない為」にクリスチャンが気を付けるべき問題はどんなことがあるでしょうか。

(例) 酒・タバコ・薬・さまざまな中毒の問題など